

佳作 92歳の日本語の先生



ガンホヤグ オドマー
GANKHUYAG ODMAA
国 籍 モンゴル
職 種 介護
実習実施者 医療法人ハynesライフ
監理団体 GTS 協同組合

広い森と澄んだ空気、山々に囲まれる美しい自然にあふれる長野県に住んで2年半がたちました。毎日、介護とモンゴルとは全くちがう異文化に慣れるため、最初の一年はあったという間に過ぎました。日本に慣れなくて外出もできず、日に日にモンゴルに帰りたくなり、ホームシックになり始めました。しかし病院に新しい患者さんが入院してきて転機が訪れました。その方は私の祖父にそっくりでした。祖父と双子の妹のように似ていて「運命だ」と思いました。

U・Tさんはいつも素敵な笑顔で挨拶してくれる和やかな人です。とても92歳には見えません。U・Tさんは昔中学校の数学教師だったそうです。私のことをすぐに忘れてしまうため、毎日初対面の人のような感覚です。数学教師になるために必死で勉強した20代、3人の子育てに忙しかったお母さんのときまで様々な経験をしました。孫の名前ははっきり覚えていのに、長年連れ添った旦那様の名前は忘れてしまう。長い時代を超えて共に人生を旅した旦那様なのに…。

私は毎日U・Tさんの病室に通い、日本語の読み書き

や発音、挨拶に加え、尊敬語や方言まで教えてもらいました。毎日顔を合わせているうちにU・Tさんの色々な事について知り、とても尊敬するようになりました。コロナ禍の3年間で医療施設が逼迫し、医療従事者がとても忙しく働いていた時期に、この病棟でも感染者が発生しました。U・Tさんも感染してしまい、転室して隔離されました。U・Tさんは痰を絡ませて吸引したり、自分で食べられたのに食事介助が必要になったりするほどでした。

U・Tさんは回復しても心肺機能が段々と低下しました。私の夜勤明けの二日間の休み中、U・Tさんは激しく咳をして、ろくに食べられなかったそうです。病室に入ると寝たまま何も言いません。私は1人きりでいつも通り天気の話を始めました。すると、彼女は頷いて目をあけ優しい目で「ご苦労様」と言ってくれました。翌日、私は空っぽのベッドに取り替えられた真っ白なシーツを見て心から悲しくなりました。外を見ると赤い夕日が美しく輝きながら沈んでいきました。U・Tさんは亡くなりましたが、彼女の素敵な笑顔と優しさは朝昇る太陽よりも暖かく感じました。

私がモンゴルと日本で経験したことや時間はU・Tさんの人生に比べるとほんの少しだけです。来日する5年前に亡くなった祖母には、私が今しているお世話はできませんでした。祖母の人生を詳しく知ることも、沢山お話しする事もできませんでした。日本で介護を学んではじめて気付きました。モンゴルに帰国したら両親や子供、年配の方々に日本で学んだことをしっかり伝えていきます。